２学年通信
３月19日（水）発行
題字　２年３組
樋口　凛さん

卒業式を終えて　～バトンを受け取ろう～

３月７日に卒業式がありました。2年生にとってはどんな卒業式だったでしょうか。短い練習時間でありましたが、式場作りから2学年が中心となって準備を進めていきました。「仰げば尊し」の歌唱も練習をギリギリまで粘って、何とか仕上げ本番を迎えることが出来ました。在校生は緊張感をもって式に臨むことが出来ていたと思います。森下さんの送辞も心のこもった堂々としたものでした。しかし、式を感動的なものとした存在は卒業生をおいて他にはありません。決意をもって前を向いた姿、山井さんの心を打つ答辞、卒業生による合唱曲「正解」は式場を揺るがせました。その姿を見て、来年の式でも同じように、そしてこれ以上の姿を見せてほしいと願いました。そのためには、学年として式までの１年間をどのように過ごしたらよいのでしょうか？そのヒントは3年生の姿にたくさん詰まっているのではないでしょうか。バトンを受け取った私たちが先輩の姿をしっかりと胸に刻み、みんなで素晴らしい１年間を作りあげましょう。

ガンバッテマス！　～長距離走者の記録～

冬といえば、体育の時間に長距離走があります。やりがいを感じる人もいると思いますが、苦手な人も多いですよね？でも頑張るといいこともあるのではないでしょうか？こんな気持ちになることが出来るのもご褒美の一つではないでしょうか。

駅伝ではみんなでタスキと気持ちをつなぎ少しでも早く次の人につなげるように全力で走ることができた。しんどくても、チームが勝てるように120%で頑張ることができたし、応援することができた。個人のタイムトライヤルでも応援に押されてがんばることができ、自分が応援することもできた。また、自分で目標に向けてがんばることができた。でも、思うように記録が出なくて悔しかった。

僕は長距離走をやってみて、仲間の応援がすごく力になると思いました。最後に走った時には一人ずつ並走してくれたおかげでキツイと思ったときにもペースを落とさずに走ることができました。長距離走をしたことで体力がついたし、心も鍛えられたと思います。長距離走は声掛けを通して仲間との絆が深められるところがよいと思いました。

西条ロータリークラブをお迎えして

～自分たちの進路を見据えて～

２月 27 日木曜日、西条ロータリークラブの会員 12 名の講師の方々をお迎えして、職業人講話をしていただきました。人生、社会の経験者として、ご自身の豊富な経験を魅力あふれる話術で伝えていただきました。社会に出たらこんなことをしたいという考えを持っている人は今はまだ、少ないかもしれませんが、大きな刺激になったように感じます。今すぐ、社会に出るのではなくても、「自分はどんな人間でどんな夢を持っているのか。世の中でどんなことをしてみたいのか。」そんなことを考えることが自分の将来を形作ってくれるのではないでしょうか？みなさんの感想の一部を載せます。友だちの思いを感じ取って、自分の考えを深めましょう。

○司法書士ってどんな仕事か知りませんでした。努力して会社を大きくしている方たちを支えることが出来、相手を思いやる気持ちを持つ、相手に笑顔になってもらうためにがんばれる仕事でとてもすてきだと感じました。
○面接をする時に見ているところは、大きな声であいさつだったり、人の話を目を見て聞く姿だったりすることでした。そのような姿をよく見ているとおっしゃったときはやっぱり大切なんだなと思いました。
○何かに挑戦するのには想い、計画、知識そしてお金が必要で、お金が大切なものだと改めて知りました。
○いつでも本番だと思って取り組むという事が印象に残っていて、人間はどこかで気が抜けてしまうけれど、将来仕事ではしっかりしようと思うことが出来た。
○わたしはあきらめないように最後まで努力していこうと思いました。「負けない秘訣は勝つまでやる。」という言葉がとても心に残りました。あきらめる前に「自分はそこまでの気持ちだったのか。」を立ち止まって考えて、いやだと思っても、やってみることを心掛けたいと思います。
○この仕事はコミュニケーションがないとやっていけないと思いました。もし、わからないことがあったら誰かに聞いて、かかわっていくことでコミュニケーションを大切にしていきたいと思いました。
○夢を叶えるには、たくさんの練習や経験、才能などが大切だと教えてくださいました。あきらめずに最後まで自分の夢をつかんでほしいと言われた時、すごく胸に響きました。

4 月から最上級生

あと一か月もすると、2年生は3年生に進級します。皆さんは3年生として後輩を導く存在になります。この１年間は単なる進級ではなく中学校生活最後の１年であり、卒業後の進路を決める大切な時期でもあります。

2年生の皆さんにはそんな3年生になる心の準備をしてほしいのです。普段の生活でちょっと新しく挑戦してみようと思うことはありませんか。自分やまわりのためにこれだけは変えた方がいいと思うことはないでしょうか。春に向けて小さな一歩を一人一人が踏み出していきましょう。